

教育部関連質問



Q

(穂土議員)

基礎学力実態調査の結果を、町はどう捉えるのか。

A

前回に比べよい結果が出たが、さらなる学力の向上を目指す。(西原教育長)

広島県基礎・基本学力実態調査結果（抜粋）

		平成 16 年	平成 17 年
小学 5 年国語	県平均点	71.8	75.3
	熊野平均点	70.3	80.5
小学 5 年算数	県平均点	75.5	80.0
	熊野平均点	69.0	86.2
中学 2 年国語	県平均点	75.2	73.0
	熊野平均点	73.1	75.3
中学 2 年数学	県平均点	65.1	70.5
	熊野平均点	60.9	71.4
中学 2 年英語	県平均点	75.5	77.8
	熊野平均点	73.5	80.4

全国基礎学力実態調査結果（抜粋）

	熊野町平均	全国平均
小学校国語	84.4	82.4
小学校算数	81.8	80.9
中学校国語	75.1	71.5
中学校数学	64.7	62.0
中学校英語	67.7	62.5

A 学力の定着度合を確認するために、県内市町全ての小中学校で行う「基礎・基本学力実態調査」と民間業者が行う「全国基礎学力実態調査」を実施した。その結果は次のとおりである。全体的に前年を上回る順位と全国平均以上の成績であるが、これらの結果をもとに学習の指導上の問題点などを明らかにし、さらなる向上を目指したい。

Q 昨年度は学力の低下が囁かれていたが、本年度はどのような結果が出たか。また、この結果をどのように捉えているのか。

Q

(山野議員)

主任指導主事職設置の成果はどうか。

A

教師間の連携が密になり、生徒へも授業等により影響が現れている。(西原教育長)



A 県教育委員会から派遣して頂いている指導主事は、学校教育における専門的事項に秀でており、熊野町の子ども達に豊かな人間性や学力、生きる力を育成することを究極の狙いとして、教職員の指導力向上を第一に考えて指導を行っている。具体的には、町内の各学校を訪問して授業参観や研究協議でのアドバイス、各種情報提供などであるが、昨年度までよりも学校への訪問指導回数も増え、教職員との連携も密になるなどの成果が現れてきている。

Q 今年度、学校教育課に主任指導主事職を設けられたが、どのような目標を持って指導をされているのか。
またその結果、先生方、生徒の反応はどう変わったのか。